安城の歴史を現代に伝える情報誌

れきしみち

2022.1
No.123

千代田の大奥 茶の湯廻り花（ポーラ文化研究所蔵）

日立電気釜
（本館蔵）

炭アイロン
（本館蔵）

寺部だい製作裁縫雛形
（学校法人安城学園蔵）

足踏みミシン（本館蔵）

P2 特集 特別展
女子のたしなみ～変わりゆく意識とくらし～

P4 第11回松平シンポジウム報告［1］

P6 連載「安城歴史散策
風を感じて歴史を歩く9」

P7… 展示関連イベント紹介
P8… 博物館実習報告
市民ギャラリーよりお知らせ

安城市
歴史博物館
Anjo city Museum of History

れきしみち No.123 令和4年1月発行 編集・発行 安城市歴史博物館（指定管理者：安祥文化のさと地域運営共同体）
安城市歴史博物館／〒446-0026 愛知県安城市安城町城堀30番地 TEL 0566-77-6655

令和３年度 博物館実習報告

7月28日から8月5日のうちの6日間、博物館実習を実施しました。学芸員資格取得を目指す8名の実習生を受け入れ、施設見学にはじまり、博物館業務などの講義を行いました。なかでも、次の2点を重視しました。

1 実物資料に触れること

当館及び隣接する市民ギャラリー・埋蔵文化財センターで取扱う歴史・考古・民俗・美術工芸などさまざまな資料に触れ、その取扱いについて大学で学んだことを再確認、あるいは新たな方法を発見してもらうこと。

歴史史料の取扱いの実習

2 常設展示の展示替えを企画・実施すること

実習生ごとにグループに分かれて展示替えのコンセプトや入れ替え資料を考え、実際に展示作業まで行うことで、展示の難しさと醍醐味の両方を実体験してもらうこと（今年度の展示替えは「弥生時代の暮らし」と「江戸時代の旅」のコーナーでした）。

常設展示の展示替え実習

今回の実習生は専攻分野がさまざまでしたが、それぞれ専門以外の資料の取扱いについても誠実に取り組み、展示替えでは時間を超過しながらも粘り強い姿勢で展示を完成させてくれました。今後の実習生の活躍に期待しています。

令和４年度の博物館実習は、さらに内容を充実させていきますので、
興味・意欲のある学生のご参加をお待ちしています。

令和４年度 博物館実習生の募集

令和4年度の博物館実習の募集を行います。実習は令和4年8月3日から11日（6～8日は休み）を予定しています。安城市歴史博物館のホームページより申込書をダウンロードし、安城市歴史博物館受付までご持参ください。
申込期間：令和4年2月1日（火）～2月27日（日）

安城市民ギャラリーよりお知らせ

安城市若手芸術家応援プログラム VOL.2「ノムラカツキ展」

《再会（キングペンギン）》

安城市若手芸術家応援プログラムは、安城市にゆかりのある若手芸術家とその作品を応援・紹介する企画です。

［開催期間］令和４年1月9日（日）～1月30日（日）
［休館日］月曜日 ※1月10日（月・祝）は開館
［時間］9:00 ～ 17:00（最終日は16:00まで）
※いずれも最終入館は閉館時間の30分前まで
［会場］市民ギャラリー展示室 D・E
［観覧料］観覧無料

市民ギャラリー特別展「日本画家 石川英鳳の築いた美」

《みみずく》

市民ギャラリー収蔵作品の他、愛知県美術館、名古屋市美術館、古川美術館、地元高棚町、遺族の所蔵する石川英鳳に関する作品を集めて展示します。

［開催期間］令和４年1月29日（土）～２月27日（日）
［休館日］月曜日
［時間］9:00 ～ 17:00（入館は16:30まで）
［会場］市民ギャラリー展示室 A・B・C
［観覧料］300円（※中学生以下無料）

安祥文化のさと

「安祥文化のさと」とは安城市にある松平氏四代50年の居城跡を整備した安祥城址公園一帯の名称です

［全館共通事項］
住　所 / 〒446-0026 愛知県安城市安城町城堀30番地
休館日 / 毎週月曜日（祝日の場合は開館）、年末年始（12/28-1/4）

安城市歴史博物館　開館時間 / 9:00～17:00
TEL：0566-77-6655　FAX：0566-77-6600

安城市民ギャラリー　開館時間 / 9:00～17:00
TEL：0566-77-6853　FAX：0566-77-4491

安城市埋蔵文化財センター　開館時間 / 9:00～17:00
TEL：0566-77-4477　FAX：0566-77-6600

安祥公民館　開館時間 / 9:00～21:00
TEL：0566-77-5070　FAX：0566-77-6062

公式HP、SNSもご覧ください
安城市歴史博物館
URL / https://ansyobunka.jp/

特別展 女子のたしなみ

～変わりゆく意識とくらし～

令和4年
2月5日(土)～3月20日(日)

観覧料400円

※中学生以下無料　※団体(20名様以上)320円

「たしなみ」とは趣味・芸事の心得のみならず日々の心がけも含まれ、家庭や教育を通して伝えられ、女性の生き方や生活の規範となりました。一般的に「女子のたしなみ」というと、長い歴史の中で培われた日本女性の「従順」「貞淑」「しなやかさ」などを連想しがちですが、女性に求められる「たしなみ」は歴史の中で常に変化していきました。また、女性たちも時代や身分・立場に応じた役割を果たしつつ、時に「したたかに」「たくましく」人生を生き抜きました。

近年女性を取り巻く様々な問題に目が向けられています。今回の特別展では江戸から明治・大正・昭和と移りかわる時代を生きた女性の姿を「たしなみ」に焦点をあてて紹介していきます。

◆江戸の女訓書◆
～育児はだれの仕事？～

江戸時代中期以降、女性用教訓書（女訓書）が多数出版されました。中でも最も広く普及したのは俗に「女大学」とよばれるものでした。「女大学」は儒教の教えに基づいており、女性は嫁ぐと夫や舅姑に、夫亡きあとは子に従うという「三従」など家族に対する道徳や、質素倹約などの心がけを説いています。

江戸時代の女訓書では女性に「良妻」であることを強く求めています。一方で、母親として健康な子供を産むことを期待されていますが、子育てや教育については ほとんど記載がありません。これは、江戸時代において子供の教育は家父長の責任において行うものとされていたためです。

＜至宝要訓＞女大学（西尾市岩瀬文庫蔵）

◆女性の身だしなみ◆
～いつでもオシャレでいたい～

「散切り頭を叩いてみれば…」という都々逸が流行したように、明治維新後、男性の身だしなみは急速に西洋化していきましたが、女性は依然として和服を着て、髪型や化粧も江戸時代と大きく変わりませんでした。女性の身だしなみに大きな変化が訪れるのは明治十年代後半からです。同十八年（一八八五）に日本髪を束髪にすることを提唱した「婦人束髪会」が設立され、同三十五年頃には、女学生を中心に前髪を大きく張り出させた束髪の庇髪が流行しました。第一次世界大戦後には、女性の間にも断髪やウェーブ・ヘアが取り入れられるようになり、大正末期から昭和初期にかけて断髪で西洋式の化粧をして洋服を着こなすモダン・ガール（モガ）が登場しました。

化粧は、明治二十年代頃から海外渡航を経験した女性が中心となり西洋式の化粧を紹介しましたが、庶民の女性は従来の化粧をしていました。明治三十年代になると化粧品会社が数多く創業し、白粉やクリームなど様々な製品を販売するようになりました。大正期には頬紅やマニキュアなど化粧品も多様化していきました。

大日本婦人束髪図解（本館蔵）

◆女学生のたしなみ◆
～良妻賢母教育と女学校～

明治維新後、政府は女性に国家の発展を担う子供を養育する「賢母」となることを求め、女子教育を推進しました。明治十年代の女子の教科書には女性がたしなむべき礼儀作法である「女礼式」が採用されました。同二十年代以降には「女礼式」を家庭教育用に分かりやすく説明した錦絵や双六などが発刊されました。

明治三十年代に女子の就学率が上昇すると、女子のための中等教育の機会を求める機運が高まりました。これを受けて明治政府は同三十三年に女学校令を発布し、以降全国で女学校が建設されました。女学校の教育目標は「良妻賢母」の養成であり、裁縫や礼儀作法などに多くの時間が割かれました。当時の女学生の海老茶色の袴で頭には大きなリボンをつけた姿は流行の最先端で、女性のあこがれとなりました。女学生達は少女雑誌に憧れを抱き、友人と手紙のやり取りをするなど、限られた日々の中に楽しみを見出しました。

市域にも明治四十五年に安城裁縫女学校（現学校法人安城学園）、大正十年（一九二一）に安城高等女学校（現愛知県立安城高等学校）が設立されました。

安城高等女学校の女学生（本館蔵）

◆芸事のたしなみ◆
～お茶・お花は女子のたしなみ？～

江戸時代までは茶華道などの芸事は主に男性のたしなみでした。女訓書には、女性が芸事をたしなむことはあってもよいが熱心に稽古することによって家業を疎かにするようなことがあってはならないと説いています。伝統的な芸事が女性のたしなみとなったのは明治中期以降、良妻賢母教育の一環として女学校で茶華道などが取り入れられたことが契機とされています。特に茶華道は女性の稽古事として多くの女性が結婚前に習うようになりました。

◆主婦のたしなみ◆
～主婦の誕生と女性雑誌の創刊～

明治期以降、大都市圏を中心に外で働く男性と「主婦」として家事全般を取り仕切る女性という家庭が増えてきました。これによって、女性の家事負担が増大しましたが、中流以上の家庭では家事労働のために女中を雇うことも多く、女中の使い方が教科書や雑誌に掲載されています。

明治末から大正期には「主婦」を対象とした婦人雑誌が多数創刊されます。中でも『婦人画報』『婦人公論』『主婦之友』『婦人倶楽部』といった四大婦人雑誌は生活に密着した実用記事を掲載し大きく出版部数を伸ばしました。女性はこうした雑誌や地域での活動を通して様々な知識を学び、くらしに活かしました。また、安城市域のような農村地帯では農家の女性の負担が非常に大きく、大正末から昭和初期にかけて、生活改善や台所改善の必要性が説かれました。県立安城農林学校の初代校長山崎延吉は、著書『婦人の覚醒』で女性に良妻賢母のみを求めるのではなく、当時の女性の力を認め、女性に社会的役割を果たすことを求めています。

『主婦の友』
大正15年11月号（本館蔵）

◆働く女性のたしなみ◆
～女性のまち安城～

明治期には、女性の社会進出も進んできます。初期の女性の職業としては、江戸時代に引き続き女中奉公や髪結いなどでしたが、明治期以降、看護婦、教師、事務員など職業婦人が出現し始めます。

明治期の日本の産業の一翼を担ったのは製糸・紡績業でした。これらの工場の職工は若年の女性に依存する割合が高く、多くの女性が従事しました。安城市域でも明治末から大正期にかけての工業生産の中心となっていたのは製糸業でした。明治四十五年創業の安城山丸製糸所は、長野県須坂町（現須坂市）に本拠を置く製糸企業山丸組の支工場でした。安城山丸製糸所は工場で働く女工を長野県内などで募集しました。製糸業が盛んであった安城市域では、大正五年以降、女性の転入者が超過に転じ、女性の工業人口は男性を凌駕しました。製糸業で働く女性は長時間労働や劣悪な労働環境で働くことを要求されましたが、次第に改善されていく傾向にあったと思われ、安城山丸製糸所では京都に慰安旅行に出かけたり、安城職業学校の優秀な女学生が裁縫を教える教育実践も行われていました。

安城山丸製糸所京都遊覧記念（須坂市立博物館蔵）

◆戦中・戦後の女性のたしなみ◆

昭和十二年（一九三七）の日中戦争開戦後、女性は未婚・既婚にかかわらず否応なく銃後の活動へ協力を求められました。戦中・戦後の食糧・生活物資の不足する厳しい生活の中でも安城市域の女性は生活改善を実施するなどたくましく生き抜きました。昭和三十年代後半には、いわゆる「三種の神器」といわれたテレビ・洗濯機・冷蔵庫など女性の家事負担を軽減させる家電が普及し、女性のくらしや意識も変化していきました。

近年では人々の生き方が多様になり、女性だけでなく男性のくらしや意識も大きく変化しています。今回の特別展でこれからの時代のわたしたちの「たしなみ」について考えてみませんか。

電気炊飯器（本館蔵）

文責：野上 真由美

第11回 松平シンポジウム【日時】令和3年10月31日(日)13時～17時【場所】アンフォーレホール

安城二代岡崎殿

安城松平家の異端児 清康〈1〉

令和三年十月三十一日の日曜日、アンフォーレホールにおいて、第十一回松平シンポジウム「安城二代岡崎殿ー安城松平家の異端児 清康ー」を開催しました。

前回の第十回松平シンポジウムでは、特にマイナーな徳川家康の父松平広忠の時期を中心にパネリストに討論していただきました。その討論の中で、広忠の時期を考えるためには、前代の清康から見るべき、とのパネリストから意見があり、今回は広忠の父清康の時期を再検討する運びとなりました。

今回のタイトルは、大樹寺多宝塔の心柱に書かれている銘文から採用しました。これは岡崎に拠点を置いていた松平清康が安城松平家の四代目に就いた、あるいは自称した文言とされています。コーディネーターの村岡氏は本会冒頭で、この文言には非常に複雑な事情が含まれていると述べているように、この時期の松平氏の事情を表している文言といえます。

しかし、清康の時代は史料に乏しく、清康の事績は、「三河物語」に由来する部分が大きいといえます。実際のところ清康は、松平氏惣領としてどのような地位にあったのか、家督を継承したとされる時から守山崩れで死去するまでの十年余という、彼が生きた時代の松平一族内外の諸関係、三河の状況の解明を本会の目的としました。

さて、大樹寺は岡崎市にある徳川家菩提寺ですが、もとは文明七年(一四七五)に安城松平家初代親忠が安城松平家の菩提寺として浄土宗の勢誉愚底を招いて開山した寺院です。江戸時代も幕府の厚い保護を受け、朱印地(幕府より安堵された土地)六一六石余の所領を寄付されました。この多宝塔は現在、国指定重要文化財です。また、タイトルの「二」は「四」を表す異体字です。

昨年同様、コーディネーター(司会)に中京大学名誉教授の村岡幹生氏、それに加えて討論のコーディネーターに谷口央氏(東京都立大学教授)のお二人、パネリストには、平野明夫氏(國學院大學講師)、山田邦明氏(愛知大学教授)、柳沢昌紀氏(中京大学教授)を迎え、基調報告、そして討論という形でシンポジウムが進められました。

コーディネーター
村岡幹生氏(中京大学名誉教授)

平野報告 平野明夫氏(國學院大學講師)「異端児清康の立ち位置と目指したもの」

コーディネーターの村岡氏はかつて清康を謎の人と表現されたが、まさに異端児だったのであろうと最近感じている。まず、島原図書館島原松平文庫にある「松平一門・家臣奉加帳写」は、その性格は不明確で、写しの史料ではあるが当該期の内容のものと考えられる。この奉加帳の順番で、離れて高額の奉加者に「弐千疋 松平次郎三郎清孝」とあるのは清康であり、その後の「医王上」が医王山＝山中城の城主の奥方を表わし、当時、清康は山中にいた。この史料は、「三河物語」にある大永三年(一五二三)の清康の家督相続の頃から同六年九月までの間につくられたものと考えられている。大永三年時の清康は一三歳、家督相続しているのに違った場所にいるということは、清康が家を飛び出したという感じである。しかし、家督を継いでいない可能性もあり、では安城松平家の家督は誰が継いだかというと、可能性があるのは桜井松平の信定であろう。

次に清康が出した文書から見てみる。以前村岡氏は『新編安城市史』ですべての清康文書は偽文書であるとした。しかし、家康と似た花押のある史料は江戸時代に作成されたものと考えられるが、大永三年八月十二日の松平清康判物、欠年三月十一日の松平清康書状(ともに稲河文書)は、花押が清康の子広忠の花押と近似していて、内容的にも問題ない史料である。この大永三年の文書には宛所の中根弥五郎に対して「今度忠節無比類候」とあり、何かの戦いがあって、戦功を賞している。この時代に戦ったというふうに伝承されているのは岡崎松平との戦いとなる。もう一点の文書は家臣の家督相続の介入が見られ、家臣統制の一つと捉えられる。

文書ではない天文二年(一五三三)十一月の大樹寺宛の制札は、清康が安城松平家の檀那寺である大樹寺の大檀那、つまりスポンサーとして大樹寺保護の姿勢を打ち出したものである。猿投神社「八講牒」裏書の天文三年六月の「松平之二郎三郎(清康)」による堂宇炎焼の記録は、猿投方面に清康が軍事行動を起こした証左となる。そして、本会タイトルの文字がある天文四年の多宝塔心柱墨書銘写は、清康自身が安城の四代目で正当な後継者、当主であることを主張したものである。広忠が出した冨賀寺宛の史料も考慮すると、天文二年頃から西は猿投方面、東は現在の新城市あたりまで軍事行動を起こしていただろうと考えられる。

山田報告 山田邦明氏(愛知大学教授)「三河戦国史における清康の位置」

松平清康の生きた時代は、永正十四年(一五一七)から亡くなった翌年の天文五年の二〇年間、戦国期の前半にあたる時期である。全国史では、戦国大名で有名な今川義元・武田信玄・上杉謙信・北条氏康などの父親世代が活躍した時期である。京都を中心とした室町幕府は健在で、足利義稙と高国を中心に政治を運営していた。やがて、将軍と高国が対立して高国が新しい将軍を擁立する。大永六年に柳本賢治が反乱を起こし、これを契機に内乱状態になった。そして細川晴元と三好元長が四国から堺に入った。様々な勢力が並立し、それに加え山科本願寺の門徒蜂起、法華門徒による山科本願寺焼き討ち、延暦寺による法華宗寺院焼き討ちなどの宗教勢力の蜂起によって、大永六、七年以降の天文元年に、まさに本格的な戦国の世が到来した。次に清康に関連する三河・尾張の当該期の状況は、遠江を制圧した今川氏が渥美半島の戸田氏を屈服させ、尾張では清須の織田達勝が織田氏の中心にいた。西三河は安城松平家が元気に活動している。

また、連歌師宗長の「宗長手記」などの記録類から、守山に館と安城城を持っている叔父信定がいる。宗長の一行は大永七年三・四月に矢作に行って、川を渡り、矢作の東の方に城が出来たのが岡崎城。今ここは岡崎と書いてあり、松平次郎三郎の城だと明言している。

この時代の三河・尾張の政治情勢を跡づけると、国衆と呼ばれる地域権力が、各地で並び立った。三河と尾張の国境地域では水野氏、特に刈谷の水野近守、和泉守などが力を伸ばした。東三河では今橋の牧野信成と田原の戸田宗光が並び立つ。清須に織田達勝が、勝幡には織田信貞・信秀親子が勢力を伸ばしていた。各地でフレッシュな国衆たちが並び立った。その中でも突出して面白いのは松平氏である。松平長忠(道閲)・松平信忠・清康の三世代がいずれも健在で、それぞれ独自の動きを示す。それからもう一人、松平与一信定の活動も特筆できる。三河を本貫としながら尾張の守山に進出し館を構える。松平氏は非常に健康な一門。これが戦国初期の永正末年から大永・享禄・天文初年までの状況である。

加えて、清康をはじめとした松平一門が西三河を中心としながら西は守山まで攻め込み、東は宇利(新城市)近辺まで攻め込んでいくことがあったのではと考えられる。

柳沢報告 柳沢昌紀氏(中京大学教授)「史書としての『三河物語』」

以前、第二回の松平シンポジウムを聴講し、「三河物語」の研究にはまだ多くの宿題が残っていることを痛感した。新行氏などの先行研究によると、「三河物語」作者の大久保忠教は、元和八年(一六二二)には成立したとされる草稿本を門外不出と言いながら筆写を許していた。そのため、多くの写本が存在するとされる。また、文芸性あるいは軍記物語的性格として指摘されるような創作部分の存在は見逃せず、松平氏の新田氏末裔説、安城松平家嫡流説、松平氏不敗神話や松平氏の伊勢氏被官論など、徳川将軍支配美化のための伝承などの意図的書き変えも相当行われているとされる。ここでは、清康の書かれている部分がどれだけ信用できるのか見ていく。

草稿本のうち蓬左文庫本およびその同系統本(写本第一類)と自筆本との比較では、五点の相違が見られる。冒頭部分の相違、写本では自筆本に見られる経典その他の文献よりの引用文、故事・諺等に関する部分をほとんど欠いていることや、古字・難字および特殊な用字等、写本はすべて豊臣氏の滅亡で終わり、自筆本の下巻後半の、大坂夏の陣後の御旗崩れ吟味の一件、および忠教の述懐・教訓の部分が欠脱していること、写本では自筆本に存する上巻の序・跋、中巻の跋、下巻の序・跋等を欠いていること等である。新行氏は自筆本では必ず武辺・情・慈悲の三点を規準として主君評価を行ったとあり、清康の事跡についての記事では大きな改訂はなく、武辺・慈悲・情というものが強調されている。

次に「松平記」と「三河物語」との守山崩れの記述から、おそらくこの「松平記」が「三河物語」よりも先に成立していて、この「松平記」の内容を踏まえるような形で、「三河物語」の守山崩れの記事が書かれているのではないかということが想像される。

まとめると、「松平記」と「三河物語」の守山崩れの記事は似通った枠組を持つ。「松平記」の記事に肉付けをし、清康の豪放さ、豪快なところを強調するような記述を大幅に記事として増加させ、軍記物語的な潤色を施すと「三河物語」の記事が成立するようにも思われる。やはりこの「三河物語」の記事ができる時に、作者の大久保忠教は「松平記」に依ったのかどうか不明だが、その草子のような資料、あるいは伝承、伝説といったものを踏まえ、それを膨らませるような形でこの清康の記事を書いているのではないかと考えられる。

■ ■ ■ ■ ■

三名による基調報告は以上のとおりです。次回は討論についてお伝えします。ご期待ください。

文責：三島 一信

天文4年(1535)4月29日
多宝塔心柱墨書銘写(大樹寺文書)

安城歴史散策

風を感じて歴史を歩く9

―東部小学校区③―

東部小学校区の最後は、三別地区（別郷・東別所・西別所町）方面の史跡を紹介します。

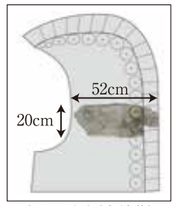
文責：片岡 晃（安城市歴史博物館 館長）

「別郷廃寺」の礎石（市杵嶋姫神社）

最初にお伝えするのは、現在の別郷・西別所町のあたりにあったとされる別郷廃寺についてです。

昭和二十八年（一九五三）に発見された軒丸瓦や、境内の本殿横に置かれている礎石から、奈良から平安時代初期の古代寺院であること、古代の碧海郡にあった「薬王寺」である可能性が示唆されています。

昭和四十三年に市の指定史跡に登録されて以降、長らく発掘調査が行われず、伽藍の配置等、不明な点が多かったのですが、平成二十五～二十七（二〇一三～二〇一五）の発掘調査では、全体の解明に少し前進することができました。この調査で発見された鴟尾は、破片が県下最大級で、年代は六七五～七二〇年頃の位置づけが可能とされています。また、特殊な須恵器の出土、大型の建物遺構なども確認されました。



鴟尾の破片（本館蔵）

あいつぐ堀立柱建物の発見

分譲住宅の建設に伴い、平成三十一年度に東別所屋敷遺跡、令和二年（二〇二〇）に西別所本郷遺跡の発掘調査が行われました。調査の結果、奈良時代から江戸時代に至るまでの多くの遺物が出土しています。柱穴の直径八〇センチ、深さ五〇センチほどの大型掘立柱建物跡も見つかっています。西別所本郷遺跡の大型掘立柱建物は、桁行四間（約七・二メートル）かそれ以上、梁行三間（約五・四メートル）の規模とみられます。寺院に関するものか倉庫のような建物であったと推定されます。

別所万歳と大行日吉法印

西別所町内の変則的な路地の一角に大行日吉法印座像が祀られている小堂があります。大行日吉法印は、別所万歳に関わる人物です。先に、別所万歳について説明します。

別所万歳

別所万歳の始まりは、室町時代と言われています。江戸時代に、別所村には三河万歳の拠点の一つとして由緒書が伝わっています。由緒書には、松平清康以来、松平家のための祈祷を行ってきたこと、江戸幕府発足後に家康の命により、三河万歳が推奨されてきたことなど、いかにこの土地と将軍家の縁が深かったかが述べられています。明治になると、政府の神道国教化政策の下で、万歳師の檀那場巡行が難しくなり、別所は神道教導職として生き残る道を求めました。別所万歳は、明治半ばから昭和初期に最盛期を迎えますが、戦後、別所では三河万歳を続ける人が少なくなりました。昭和四十二年に、榎前・福釜の人たちを中心に三河万歳保存会が結成され、別所の神道三河万歳の伝承者から伝授され、安城の三河万歳へと発展しました。

万歳隆盛の祖、大行日吉法印

大行日吉法印は、徳川家康の庇護を受けて別所万歳を広め発展させたと伝えられています。大行日吉法印は、長谷部郷（現在の岡崎市西本郷町・安城市東別所町・西別所町一帯）に移り住んで万歳を始めた尾張国熱田神宮薬師寺の僧、玄海の跡を継いだとされています。西別所町地内には、墓碑と座像を納めた堂が残り、位牌によれば、慶長二年（一五九七）に没しています。四〇〇年以上たった今も、地元では毎年法要が行われ、三河万歳の功労者として地域の人々から大切にされています。

東部小学校「郷土の日」（校外学習）では、地域の方と学区内の史跡を勉強します。高学年の児童は、今回紹介した史跡に加え、応塚古墳の向かいの位置にある岡崎市西本郷町の和志山古墳のことも学びます。

大行日吉法印座像

企画展「THE 三河MANZAI」
特別展「女子のたしなみ」

SPECIAL EVENT

申込み・問合せ　歴史博物館　TEL:0566-77-6655

企画展「THE 三河MANZAI」関連イベント

歴博講座　参加無料　要申込

「安城の三河万歳を知る」

［日　時］令和3年12月26日（日）14:00～
［講　師］西島庸介（本館学芸員）
［定　員］30名（先着順）

体　験　参加無料

「重ね摺り体験で三河万歳」

［日　時］令和3年12月4日（土）～令和4年1月16日（日）
［対　象］企画展観覧者

関連イベント　参加無料

「太夫と才蔵と撮影して福を呼ぼう！」

笑う門には福来る！太夫さんと才蔵さんと一緒に笑顔で記念写真を撮りましょう。

［日　時］①令和3年12月26日（日）15:00～15:30
②令和4年1月16日（日）13:00～13:30
［対　象］企画展観覧者

「新春の三河万歳レクチャー公演」　要申込

［日　時］令和4年1月16日（日）14:00～
［出　演］安城の三河万歳保存会
［解　説］西島庸介（本館学芸員）
［定　員］20名（先着順）

「三河万歳競演～安城農林高等学校 郷土芸能同好会～」　要申込

［日　時］令和4年1月8日（土）10:30～
［定　員］20名（先着順）

「三河万歳競演～下山三河万歳保存会～」　要申込

［日　時］令和4年1月9日（日）13:30～
［定　員］20名（先着順）

特別展「女子のたしなみ」関連イベント

講演会・講座の申込方法　各申込期間内にお電話（0566-77-6655）又はあいち電子申請システムよりお申込みください。

記念講演会　参加無料　要申込　※電話または、あいち電子申請システムにて受付

「近世女性の職分 ―規範とその生活―」

［日　時］令和4年2月20日（日）14:00～
［講　師］吉田ゆり子氏（東京外国語大学教授）
［定　員］30名（抽選）
［申　込］1月9日（日）9:00～2月6日（日）17:00

「女学生の文化・教養・たしなみ」

［日　時］令和4年2月26日（土）14:00～
［講　師］稲垣恭子氏（京都大学理事・副学長）
［定　員］30名（抽選）
［申　込］1月15日（土）9:00～2月12日（土）17:00

歴博講座　参加無料　要申込

「女子のつとめとたしなみ」

［日　時］令和4年3月5日（土）14:00～
［講　師］野上真由美（本館学芸員）
［定　員］30名（抽選）
［申　込］1月22日（土）9:00～2月19日（土）17:00

体　験　要申込　※電話にて受付

矢絣、格子柄など日本で古くから伝わる模様を用いて、ファッションデザインとネイルを学ぶ専門学校生が、現代風にアレンジした和柄のネイルデザイン（写真参照）を考えました。

左の6種の基本デザインから選べます。

「和柄ネイルアートの施術」

可愛い和柄をアレンジしたネイルを施術してもらいます。体験してみませんか。（所要時間30分程度）

［日　時］令和4年2月27日（日）
①10:00～ ②10:45～ ③11:30～
④13:00～ ⑤13:45～ ⑥14:30～
［施　術］慈恵歯科医療ファッション専門学校生（ネイリストとしての専門技術を学んでいます）
［定　員］各2名　［参加費］500円
［申　込］2月6日（日）9:00～電話受付（先着順）

「和柄のネイルチップづくり」

和柄のネイルチップを一緒に作りませんか。ファッションデザインとネイリストの専門技術を学ぶ専門学校生がネイルチップに和柄のデザインを描くお手伝いをします。

［日　時］令和4年2月27日（日）
①9:30～10:30　②11:00～12:00
③13:00～14:00　④14:30～15:30
［講　師］慈恵歯科医療ファッション専門学校生（ネイリストとしての専門技術を学んでいます）
［定　員］各3名　［参加費］500円
［申　込］2月6日（日）9:00～電話受付（先着順）

実演&コンサート　参加無料　当日受付

展示関連高校による

「女子のたしなみ 書の実演&唱歌コンサート」

［日　時］令和4年3月19日（土）14:00～15:30
［会　場］安祥城址公園 石舞台（安城市歴史博物館隣接）
［出　演］山本祐司氏（書道家）、安城高校書道部、安城学園高校合唱部
※雨天時、書の実演は内容変更、コンサートは中止となります。

イベント

「歴博福よせ雛」

特別展「女子のたしなみ」にちなんだ福よせ雛を展示。
明治・大正・昭和の時代を生きた女性の姿を「たしなみ」に焦点をあてて再現します。

［日　時］令和4年2月5日（土）～3月20日（日）

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、定員数・開催方法や日時・内容等を変更する場合もありますので、最新情報はHPにてご確認ください。